

## 前回の審議会における主なご意見等

### 1 市民の反応や周知等について

- ・市民説明会の質問や意見は理解がある人の意見であり、違った意見もあるのでは。
- ・若い人などの一般市民レベルの意見はつかめていないのか。
- ・一般市民への周知はまだまだ足りないのではないかと。現在は関心の高い人のみのようだが、多くの市民に理解を得られるようしっかりとした説明をすべきである。
- ・施策を効果的に実施するためには、周知することが重要であり、日野市では市長が先頭に立ち、職員延べ 180 名で 600 回の説明会を行った。
- ・有料化の目的は減量、資源化であり、市民が納得する必要がある。
- ・事業系ごみの割合などの情報も市民に周知したほうが納得を得やすいのでは。
- ・人口の一番多い 30、40 代は一番ごみを出す世代だと思われ、そういった世代の意見をアンケート調査でもっと聞き、納得してもらうようにすべき。

### 2 家庭ごみ有料化制度について

(料金体系について)

- ・排出量単純比例型は、最初から排出抑制効果があるということで良いと感じた。

(対象品目について)

- ・燃やすごみを有料、プラ容器を無料とすると、分別が曖昧なものをプラ容器に入れてしまう恐れがある。そういったことも考慮してほしい。
- ・プラ容器については無料が良いと思う。

(料金水準について)

- ・手数料を高く設定した市において、不法投棄やルール違反等の副作用について問題はなかったのか。
- ・市川市の公民館等の料金負担の原則は、公費負担 50%、受益者負担 50%であるが、家庭ごみ有料化における公費と受益者の負担率基準はどう考えているのか。
- ・料金水準の高い他市の事例のマイナス面をしっかりとつかんでいないように感じており、手数料が高ければ高いほどいいとはと捉えていない。
- ・料金設定については千葉市の事例など千葉内での整合性をとることも考えられる。単純な比較は難しいが、市民が納得しなければ不法投棄につながると思う。

(その他)

- ・審議していく上で、市民の意識が高く合意形成ができていた日野市の事例は参考になると思う。

### 3 ごみ収集回数の削減・戸別収集方式の導入について

(ごみ収集回数の削減について)

- ・週1回の紙類、布類の収集回数も減らせるのでは。
- ・共同住宅のごみ集積所は毎回いっぱい祝日後は混乱状態である。回数が減ると祝日後の状況が常態化することが予想されるため、ごみ集積所の容量等の実態を調査する必要がある。
- ・収集回数が減れば、祝祭日の収集などの負担増が考えられるため、収集業者の人たちの意見も必要になると考える。
- ・現在はハッピーマンデーの収集に勤務した従業員に祝日手当を出しているが、全祝日で収集となれば、シフトで対応していくことを検討している。
- ・収集回数を減らすに伴う様々な問題に対して、どういった対応ができるかはもう少しきめ細かく現状を把握して対策を検討していくべきである。

(戸別収集方式の導入について)

- ・市川市では、共同住宅の割合が多いと思うが比率はどの程度か。いろいろなファクターがあると思うので市の特性をあわせて考えていくことが大事である。
- ・日野市では戸別収集の実施のために業者と一年間議論してきたようである。市川市は集積所収集であり、もっとスムーズにいくかと思う。
- ・戸別収集はどのようなスケジュールで実施していくのか。

(共通事項その他)

- ・長時間ごみが残ったままだと、路上の障害物になることや猫・カラス対策が問題となる。他市の対応についても参考とすべきである。
- ・収集が遅い時間になってしまう場合は、行政が特別な対策等も検討する必要がある。個人で対応となると公平性の問題がある。
- ・3つの施策の収支がどうなるか、最後に答申の資料とあわせて示す必要がある。